



はじめに

今年は、第二次世界大戦が終わって、六十六年目にあたります。戦争を体験された方も高齢になられ、苦勞されたこと、お辛かったことを、若い世代へ伝える機会が少なくなっており、私たちは、戦争のことを遠い記憶として忘れがちになってきています。

札幌市では、平成四年に、平和都市宣言を行って以来、戦争のない平和な世界の実現を願って、この宣言の理念を広く市民に普及・啓発するため、様々な事業を毎年実施してきました。

特に、平成二十年度からは、原爆投下や終戦といった日本人として忘れてはならない日々が集中している八月を平和月間と定めるとともに、戦争を体験された札幌市民のお話を聴き取り、記録していく事業を、各区役所の主催でスタートしました。

この本は、そのときに語られた、戦争の苦しみや辛さ、平和への想いなどの札幌市民の貴重な体験談（平成二十一年度分）を、次の世代の子どもたちへ伝えていきたいという思いから生まれました。

平和月間は夏休みにも重なります。どうか夏休みや学校の授業などの機会を生かして、より多くの子どもたちにもこの体験談を読んでもいただき、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考え、さらに次の世代へ、未来へと大切に語り継いでいくことを期待しています。

なお、ご協力いただいた語り部の皆様並びに監修いただいた西田秀子氏及び関係各位に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

平成二十三年七月

札幌市長 上田文雄